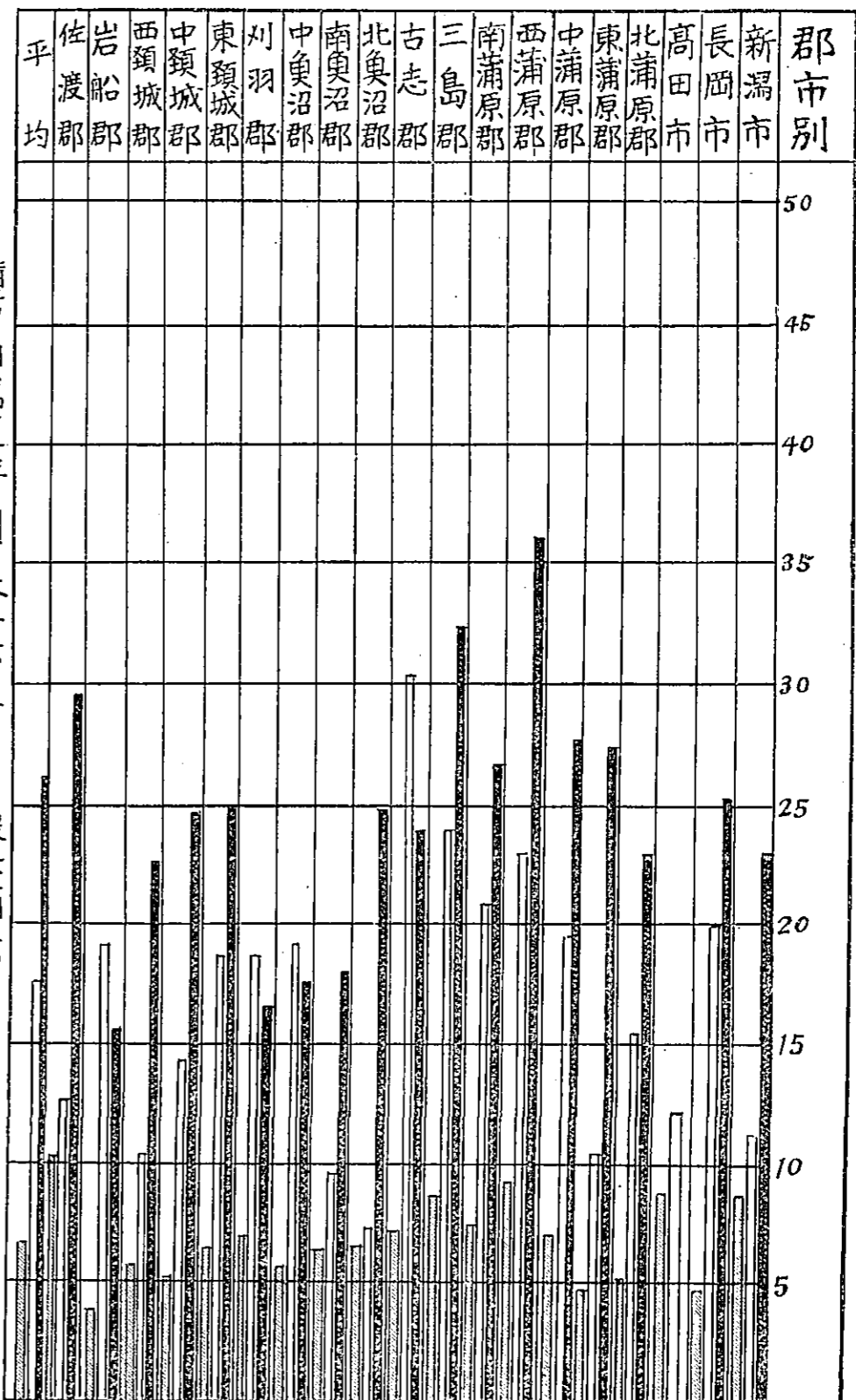
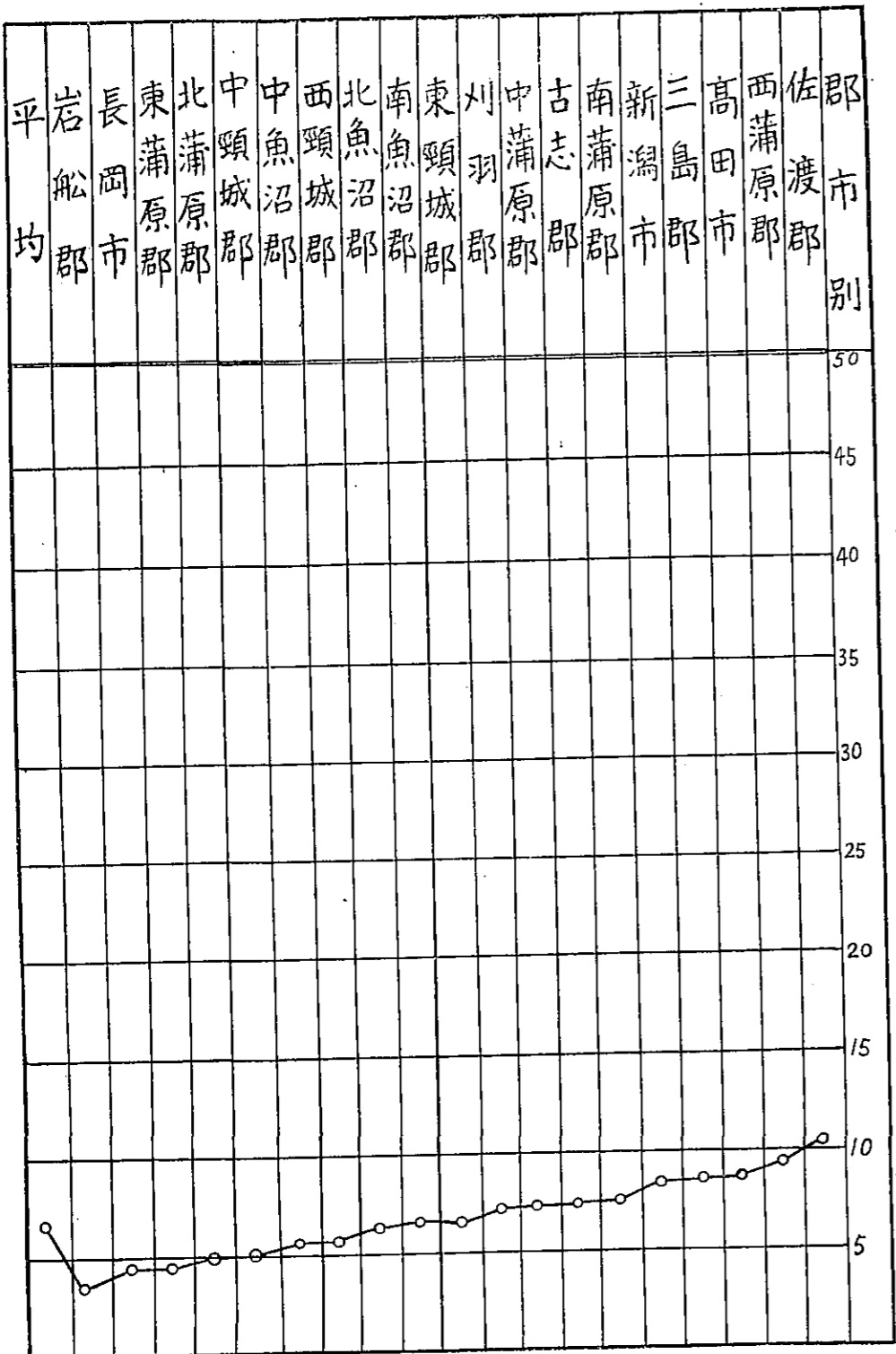


新潟縣壯丁「トラホーム」豫備檢診郡市別成績表



備考 明治四十三年 ■ 大正六年 □ 最近三年平均 ▨

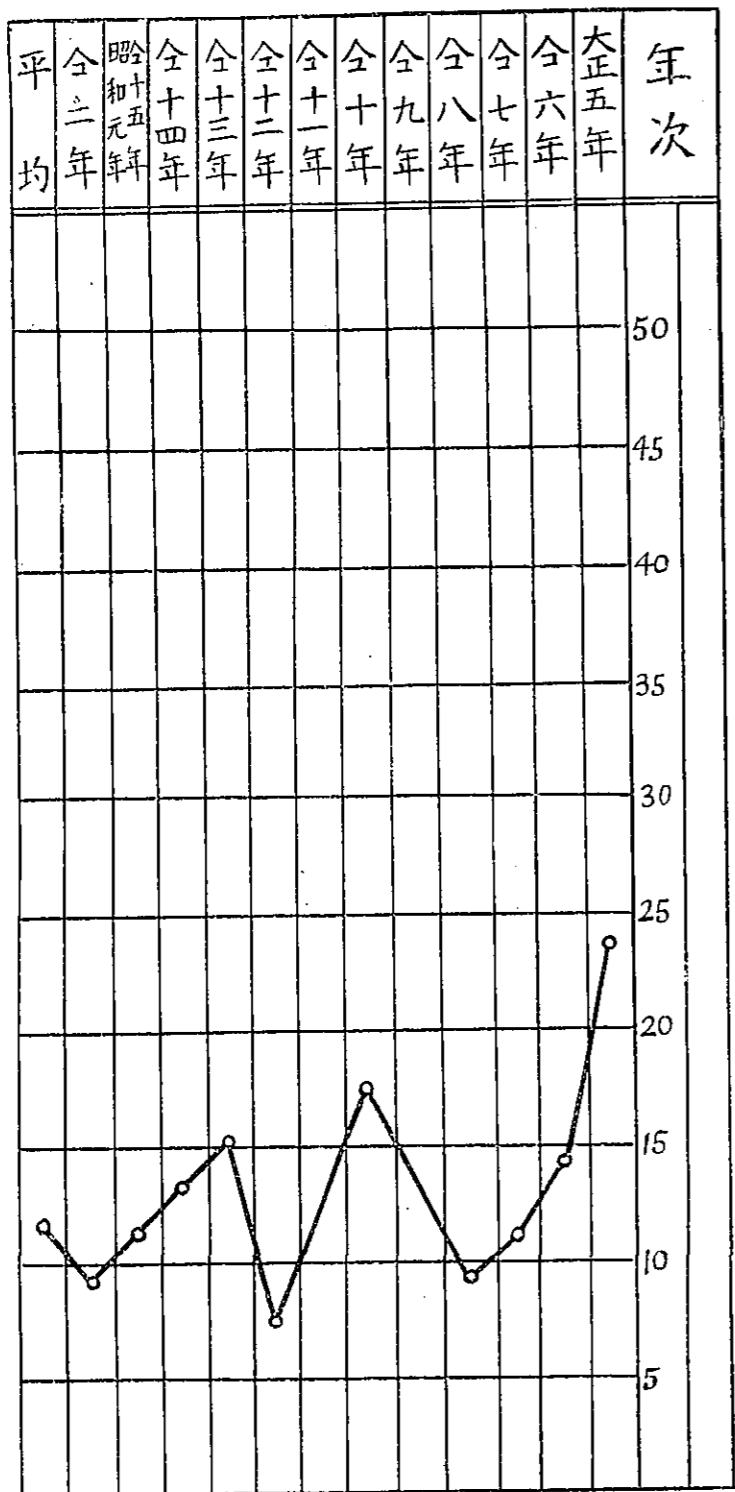
新潟縣壯丁「トラホーム」豫備檢診最近三年間平均%順位表



新潟縣一般住民年次別「トラホーム」検診成績表

年次	検診人員	患者数	百分比	備考
大正五年	八、二二五	一、九二七	二二・七一	自大正五年五ヶ年分ハ町村ノ希望ニヨリ検診治療チシタルモノ 至昭和元年五ヶ年間ハ壯丁「トラホーム」豫備検診ノ結果六ヶ年平均ニ於テ高率ヲ示シタルモノ 昭和二年ハ高率ヲ示セルモノ五ヶ村低率ヲ示セルモノ四ヶ村 曾テ治療チタルモノ三ヶ村
同六年	一、六三〇	一、六四三	一四・一三	
同七年	一〇、二八七	一、一四七	一一・一五	
同八年	一〇、四八二	九九三	九・四七	
同九年	七、四七一	一、三三四	一七・八六	
同十年	二四、九九二	一、九六三	七・八五	
同十一年	二六、〇一三	三、九四一	一五・一五	
同十二年	一五、〇二八	二、〇〇一	一三・二二	
同十三年	二五、三九五	二、八三五	一一・一六	
同十四年	三九、五四三	三、六三七	九・二〇	
計	一七八、九六六	二一、四二一	一一・九二	

縣下一般住民「トラホーム」検診成績表



一般住民トラホーム検診成績表

大正五年以降十二年平均

郡市名	検診人員	患者	百分比例	備考
新潟市	1	1	1	中頸城郡
長岡市	1	1	1	西蒲原郡
高田市	1	1	1	佐渡郡
北蒲原郡	14,577	1,513	10.38	中蒲原郡
東蒲原郡	2,719	135	4.93	南蒲原郡
中蒲原郡	26,941	3,262	12.11	中魚沼郡
西蒲原郡	23,360	4,037	17.28	三島郡
南蒲原郡	13,445	1,591	11.83	刈羽郡
三島郡	21,677	2,537	11.70	北蒲原郡
古志郡	10,550	1,028	9.74	古志郡
北魚沼郡	5,504	496	9.01	北魚沼郡
南魚沼郡	7,702	905	11.75	東頸城郡
中魚沼郡	19,657	2,103	10.70	東蒲原郡
刈羽郡	8,207	659	8.03	岩船郡
東頸城郡	9,082	2,176	23.96	平均
中頸城郡	3,155	86	2.73	
岩船郡	1,558	242	15.53	
佐渡郡	168,134	20,770	12.35	
合計				

新潟縣接客業者トラホーム検診年次別成績表並百分比例表

年次	検診人員	患者數	百分比例
明治四十二年	12,611	2,494	19.78
明治四十三年	11,587	1,522	13.14
明治四十四年	16,020	2,073	12.94
大正四年	15,470	1,669	10.80
大正五年	15,929	2,116	13.28
二年	22,582	3,296	14.60
三年	21,583	2,797	12.96
四年	20,833	2,821	13.54
五年	21,410	2,454	11.45
六年	20,286	1,705	8.41
七年	21,233	1,410	6.64
八年	26,594	1,655	6.22
九年	26,744	1,655	6.19
十年	27,882	1,081	3.88
十一年	14,688	466	3.18
十二年	10,985	505	4.60
十三年	9,584	337	3.52
十四年			
昭和五年			

(ル據=績成査検兵徴) △ | ホラトルケ於 = 縣滬新  
 均平間年三迄年二和昭) 日年五十正大



例 凡	
5% 以下	
5-10%	
10-15%	
15% 以上	
電	鐵縣國村郡國
道	道未成線
車	道道邊界界

## 第三章 「トラホーム」の消長に關係あるべき各種の事情

### 第一節 地理地勢的影響

#### 第一 山地、平地、海岸との關係

Chibret(一九世紀末)は「トラホーム」の發生は其土地の高低に關係あることを發言したる第一人者なり。同氏は佛、白耳義、瑞典に於ける「トラホーム」發生につき深き研究をなし「トラホーム」は海拔二〇〇m、以上に於ては接觸傳染薄弱となり、又其症候激甚ならず、二〇〇m、以下の土地に於て初めて流行性風土病的に現はるることを論じ、Suttonは五〇〇m、以上のバイエル高原に於ては「トラホーム」を見ずと報告せり。

之れに反し Reisinger は、ヘームに於て研究して、Chibretの説に反對し、Suttonはホーヘンツォルン、オーベルランケンの一部に於ては四〇〇—六〇〇m、の高地に於ても尙「トラホーム」を發見し、且二〇〇m、以上の土地に於ては大河流域の如き低地よりも「トラホーム」感染の傾向少なきならんも、尙「トラホーム」の發生可能にして流行性に現はることあり、只其症候は稍善良なるものゝ如しと發表せり。Lorenz はマルギールに於ては土地の高低は「トラホーム」發生に重大なる關係を有せずとなし、Mitschen も前者と同様の意見を主張す。即東細亞及アフリカの高地(一五〇〇—五〇〇〇m)に於ても「トラホーム」のあることを報告せり。Boek は(一九〇〇年)クラインに於て海拔一〇九〇m、の所に地方的に多數の「トラホーム」を發見し、且相當悪性のもの多かりしことを説き、Chibretの説に反對せり。是れと同じく Kovtshch は南アフリカの二〇〇m、の高原に住せし「トラホーム」患者を治療したる旨を報じ、Kovtshch はオーベルカリホルニヤに於て四七〇〇尺高の山地に於ても尙「トラホーム」患者の多きことを發表し、Sutton も亦土地の高低の關係は甚しきものにあらずと報告せり。

#### 各種検診成績より見たる狀況

之れを我國の狀況に徴するに(大正十五年既往三ヶ年平均但し回答を得ざるもの少數あり)

(一) 接客營業者の「トラホーム」検診成績より見れば次の如く

海	平	山	府	縣	數	檢	診	人	員	患	者	數	最近三年間平均%
岸	地	地			二九				一一、七五一			一、二三七	一〇・五三
					三一				一九、〇六六			二、〇三〇	一〇・六五
					二四				一三、一三三			一、三八一	一〇・五一

にして平地山地海岸の順位に在れども其差極めて少なく概言すれば殆んど懸隔なき状態に在り次に  
 (二) 壯丁豫備檢診成績より見るに

海	平	山	府	縣	數	檢	診	人	員	患	者	數	最近三年間平均%
岸	地	地			三三				五、二一九			八四九	一六・二七
					三一				九、〇一九			一、四七八	一六・三九
					二六				六、四三七			一、一九八	一八・六一

にして海岸最も多く、山地は全然之れに反し、平地は其中間に位すること前表と全く其趣を異にせり。更に  
 (三) 一般「トラホーム」檢診成績に徴するに

海	平	山	府	縣	數	檢	診	人	員	患	者	數	最近三年間平均%
岸	地	地			二二				一一、七九六			一七、〇二二	一三・三二
					二二				一九七、二〇七			三三、一一九	一六・七九
					一七				九五、五一三			二二、五五一	二三・六一

にして、壯丁「トラホーム」豫備檢診成績と全然一致するを見る。而して接客營業者は其の名の如く所謂客商買たる關係上容姿に意を用ゆること多く、治療比較的普及し、且地勢の如何に係らず都會地に生活する者多數を占め、加ふるに轉々移動甚しき等の諸點は比較觀察上の價値を減殺するものなるべく、之れに反し壯丁檢診並に一般住民檢診成績は其確實性並に數に於て前者の比にあらざるを以て此の兩者相一致して示す數字は差當り信を置くに足るべく、此の數字より推せば「トラホーム」は彼の伊太利若くは地中海沿岸諸邦に於けると同様

「本邦に於ても亦海岸に最も多く平地、山間と漸次減少するものなり」と云はざる可からず。此の事實は新潟縣に於ける八町四十八ヶ村の住民一六八五〇七人、並に既往十ヶ年平均壯丁豫備檢診成績によりても明瞭に證言せられ居れり。

第二、濕低地と「トラホーム」

濕低地と「トラホーム」との關係に就きNaimは泥濘地の住民は「トラホーム」に罹り易しと實査上説明し、Hogarthも土地に因縁をつけて土地病と稱し、殊に沼に資を歸し、沼多き地方に於ては二三・九—三〇・〇—四四・六%なれども沼少なき地方に於ては一〇・九%なりと云ひ、Reisingerに依れば埃國エルバ平野は二〇〇m以下の沼地にして同國に於ける病竈地帯を爲し、又獨國オーバーフランケンのパイロツトの沼地附近に於ては、普國陸隊兵により感染せしめられて一小「トラホーム」島をなせる報告(Reisinger)ある等何れも愈之れ濕地に木病多きを立證する資料たらざるはなし。然るに一方乾燥高原にも木病濃厚且悪性なることあり、又ハンガリーのアルフォードは全く乾燥せる砂低地にして之れに反しブリヅキギエル地方は極端なる森林地帯なるに共に同國に於ける二大病竈地帯として濃厚に存在しオランダは低地なるにも係はらず却つてベルギーより少なき記録あり。更にFischerはハンガリーに於て精査し、其結論に於て木病は土地の性質、沼氣等に何等關係なき旨を發表せり。

茲に於て吾等は此の間の關係を知らんが爲め縣下六十二ヶ町村を

山 地 (山間の部落)

乾 地 (平地にして海岸より相當の距離あり且乾燥せる地)

濕 低 地 (平地にして殆んど半歲間洪水し又は沼の周圍の町村)

に分ち各地に於ける壯丁「トラホーム」豫備檢診成績(既往五年間平均)により左表の如く同數町村を比較し其成績を觀察したり。

濕低地、乾地、山間の「トラホーム」比較 (昭和二年新潟縣)

町 村 名	檢 診 人 員					患 者					%	
	大正十一年	同十二年	同十三年	同十四年	昭和元年	計	大正十一年	同十二年	同十三年	同十四年		昭和元年
石 山 村	五	五	五	五	五	三二	三	三	三	三	三	一五
大 形 村	四	四	四	四	四	一九	一	一	一	一	一	七
鳥 屋 野 村	三	三	三	三	三	一七	一	一	一	一	一	七
曾 野 木 村	三	三	三	三	三	一四	一	一	一	一	一	七
早 通 村	三	三	三	三	三	一三	一	一	一	一	一	六

間	山	合	地			城下安明赤新中北山山上五十米木笹川 保探治塚道通條本通組公倉田岡東 倉村村村村村村村村村村村
			計	見附 村	計	
浦山菱沖石	浦山菱沖石	八七三	二四	九五	七九	六三三三三三三三三三三三三三三三三
田平里見黒	田平里見黒	六二一	二四	五七	五七	四二二二二二二二二二二二二二二二二
村村村村村	村村村村村	八二一	九	四四	七九	六二七三三三三三三三三三三三三三
		六〇八	一三	六	六五	四二五五五五五五五五五五五五五
		九元	一八	一〇三	七四八	六三三三三三三三三三三三三三三三三
		四一三	四四	二九	三〇八	二二二二二二二二二二二二二二二二二
		商	八	二六	五	六二二二二二二二二二二二二二二二二
		二元	五	二三	二四	五五五五五五五五五五五五五五五
		五二	七	一六	四	三三三三三三三三三三三三三三三三三
		四	一七	一六	四	二二二二二二二二二二二二二二二二二
		五五	八	三	五	四二二二二二二二二二二二二二二二二
		二四	四	三九	二九	七二二二二二二二二二二二二二二二二
		三〇	九	三九	三九	八〇九〇九〇九〇九〇九〇九〇九〇九〇
		六・四三	七・三	一〇・五	六・六	八・四七・五五・五〇・五〇・五〇・五〇

1101

乾	合	地					町 村 名	檢 診 人 員 計	患 者 數	%								
		計	龜 田 町	葛 塚 町	計	長 浦 村					中 浦 村	佐 々 木 村	神 山 村	萩 川 村	鋳 郷 村	漆 山 村	四 上 村	道 上 村
大橋	八四九	二四	七	六	八	商	二二	三〇	二・六									
金津	九二六	二四	七	六	八	商	七〇	三〇	二・八									
新津	九二六	二四	七	六	八	商	三〇	三〇	二・九									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	七・四									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									
計	九二六	二四	七	六	八	商	一〇〇	三〇	二・八									

1101

町村名	検査人員											患者数												
	十一年正		十二年		十三年		十四年		昭和十五年		計		十一年正		十二年		十三年		十四年		昭和十五年		計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
小瀬村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
杉野村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
神立村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
入瀬村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
秋成村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
中深見村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
仙田村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
仙田村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
高根村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
三田村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
東川村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
西川村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
中野村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
中野村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
種原村	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
計	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
合	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

即

検査人員	患者	%
濕低地二町十九ヶ村平均	四、八六四	七・六五
乾地二町十九ヶ村平均	四、一一二	六・四二
山間三町十九ヶ村平均	二、三五七	五・〇五

の成績を得たり之れを其儘に見れば、Zimu, Hous等の説の如く濕低地は稍多く乾地、山間と漸次罹病率少なく従つて濕低地に本病比較的多しと云ひ得るも、前表中佐々木、神山、中浦、長浦は何れも福島潟を周擁する海拔二・四—二・八mの低地なるにも係らず少なきは二・一—二・八%多きは七・四—一〇・〇%にして其間餘程の懸隔あり、一方乾地に於ても九・六%等に昇る處あるを見れば濕低地たるが故に必ずしも多しと云ふことを得ず、只「概して多きが如し」位に評するを得べきか。次に高原山間に於ては屢々例外ありとするも之れ又「概して少なき」結果を得たり。乍然毎常然らざるは縣下中魚沼郡中條村、中頸城郡中郷村は何れも票高一一九—三二五・六mの高原なるにも係らず一六—一八%以上の高率を示せるに徴し肯定し得べし。

### 第三 河川の流域と本病

前述の如く濕低地又は沼地に動もすれば本病罹地帯に本病多しとせば之れと同様の關係に立てる極めて緩流なる河川の流域にも亦概して本病多きものにあらずやとの疑問は當然起り得る處なり。此れに關しては小口博士(大正六年眼科臨床醫報)も大正五年陸軍統計書を見て「緩慢なる河川に沿ひたる平地には本病多く且之れ水流の鬱滞が本病蔓延の要約に適するものならん」旨を報告せり。元來信濃川は全國中稀に見る緩流にして殆んど縣の半ばを恰も長蛇の如く蜿蜒し阿賀川との間に廣大なる平地を擁し殊に大河津分水以北は大凡三「マイル」の流速を示せるが今此の流域に沿ふ町村住民を上流より順次に列べ且其各町村に於ける一般住民及壯丁豫備検査成績を以て比較すれば次の如く

信濃川流域町村と「トラホーム」の多寡(河は村順に流下す)

町村名	検査人員	患者数	%
1 千平村	10・01	九・〇三	九〇・三
2 中條村	七・四	三・三	三三・三
3 下條村	三・三	三・三	一〇〇
4 川口村	九・七	八・七	八九・七
5 城川村	三・七	三・七	一〇〇
6 石津村	一	一	一〇〇
7 片貝村	六・三	七・〇八	一一二・二
8 十日町村	一四・六	一四・五	一〇〇
9 來迎寺村	二・二	二・六	一二七・三
10 深才村	六・六	九・六	一四五・九



11 北谷村	12 富曾龜村	13 關原村	14 見附町	15 新潟村	16 今町	17 坂井村	18 小林村	19 白根町	20 島上村
六・四六	二・二六	一・三九	二・三九	八・六六	二・〇六	二・九	一・三九	三・三九	三・三九
六・三三	一・四〇	四・九〇	五・六六	六・五五	一・〇六	一・〇六	三・四〇	一・〇三	一・八〇
21 大郷村	22 巻町	23 豊郷村	24 赤塚村	25 龜田町	26 内野村	27 黒崎村	28 石山村	29 大形村	
一〇・六六	一五・二二	一四・元	一七・三〇	八・四六	一九・八二	一八・二五	一七・八〇	三・五五	一六・四〇
六・三〇	四・〇〇	三・一〇	一・七〇	四・〇〇	一・九八	一・七〇	二・七〇	三・七〇	三・八〇

備考 右側数字は一般民衆検査の成績  
左側数字は壯丁豫備検査の成績 最近一年

之れに依つて見るに一般民「トラホーム」検査成績に於ては概して下流に赴くに從つて高率なるが如きも下條、石津、來迎寺等の如き急流地域に於ても尙且高率を示せる一方下流各地にも低率を示せる處ある等必ずしも一貫せず、更に壯丁豫備検査成績に徴すれば、全く不定にして結局緩流々域と本病蔓延要約との密接なる因縁を發見するに至らず、假りに一般民衆検査成績のみに依るとするも恐らく濕低地に於けると同様以下の程度に評價すべきが如し。

要するに本縣に於ける調査を以てすれば「濕低地は概して患者多く山間の高原は概して少なき數を示せり、但し毎常例外あるは本病蔓延原因が必ずしも一ツにして足らざるを證するものなり」と云ひ得べき程度なり。

第四 砂 塵 地 帯

塵埃多き所の埃及、及シリア、パレスチーナ、彼斯、小亞細亞、希臘、ウングルン、東西プロシヤの如きは本病多き記載あり(中村、早野)。

Suzet (八九二年) は亞刺比亞、スダ島に於ては貿易風の爲塵埃空中に多き時には「トラホーム」多しと云へり。

蓋し塵埃は眼に入れば結膜を刺戟し其刺戟、状態に陥れる結膜は健康なるものに比し「トラホーム」病原の侵入に際し一種の素因を與へ又は手指を以て摩擦すること多ければ從つて本病原を植付くる機會を與ふるに由ると云ふにあるが如し。然るに一方 Bahar (一八三六—一八六〇年) は彼の「東洋に於ける疾病」中「眼炎は東洋の各地に蔓延せり(砂漠を除き)云々」と記しヒルンユベルヒも「氣象的關係が本病に

重大關係なきことはベヅイン砂漠及オーゼンに本病なきこと並にエヂプトに居住する「ヌビー」人「スグン」人に「トラホーム」なきに徴して明なり云々」と報せる等何れも未だ信を置くに足らず。

新潟縣「トラホーム」検査成績表 自大正五年至昭和二年間に施行したる検査(一般住民)

總計	検査人員	患者數	百分比	男		女		検査人員	患者數	百分比
				検査人員	患者數	検査人員	患者數			
山 村 (一町)	一、三五	元	三・三	一、五四	六	六・六	三、七九	三、三	四・九七	
地 村 (二三ヶ村)	一七、七七	一、三五	七・五七	一、八二	一、八七	九・九	三、三二	八・八		
地 村 (六ヶ村)	一八、四三	一、三三	七・二	三、〇三	一、九七	九・五	三、三	三、三	八・五	
地 村 (二八ヶ村)	一四、六三	一、三六	九・四	一、六三	二、四七	三、一〇	三、八三	三・三	三・三	
地 村 (二ヶ村)	五、四九	三、七四	六・八	元、四〇	五、八九	四・四	五、九六	九・六	三・三	
地 村 (一町)	三、九六	五、〇〇	一二・六	五、九六	八、三三	一四・八	一〇、七九	一二・八	三・三	
地 村 (一町)	七、九三	一、三六	一・七	三、六九	五、五	六、六三	六、〇〇	三、四	三・四	
地 村 (七ヶ村)	一〇、六六	一、三五	一・五	八、六四	一、八七	三、〇	一、八八	三、〇	一・九	
總計	九、三三	七、四九	九・九	八、六六	一、三三	一四・三	一六、五七	三、〇	一、三	

新潟縣壯丁「トラホーム」豫備検査成績表

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	十一年正	十二年正	十三年正	十四年正	大正十五年	平均
海 岸 市	二・二六	二・四九	九・九〇	八・六	七・六二	二・六	六・七四	八・五	九・四	八・〇	九・四
平 地 市	一・七二	二・九五	九・四	九・五	五・九	七・五	五・四六	七・四	八・四	八・〇七	八・五
海 岸 町	一四・九	一六・三九	二・九〇	二・二	一〇・二	四・七	三・〇四	二・〇六	三・三九	九・三	二・三
海 岸 村	三・〇	五・五五	四・一八	二・〇六	三・三	二・四	一・二八	一・〇四	一・三三	一・五五	一・四
平 地 町	二・三	四・五五	二・八〇	九・六	一〇・八三	八・五	七・〇	六・四九	一・三	八・三	一・四
平 地 村	一五・三	一四・九	〇・六	八・六	九・二五	八・〇三	八・六	一〇・三	九・六	八・四	一〇・四
山 地 町	三・六	一〇・九	二・六	八・五	七・八七	三・元	五・八五	九・四	八・六	七・三〇	九・三

道府縣別	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	三ヶ年間合計	平均
山 地 ノ 村	八・三	二・五	八・〇	八・六	八・三	七・五	七・三	九・九	九・九	九・九	九・九	九・六
平 均	一・三	三・四	二・九	九・四	九・六	七・八	八・三	九・三	一〇・五	八・七	一〇・五	一〇・五

備考 平均は材料不充分の爲め%の平均なり。

各府縣別山間部落接客業者「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年		十年		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
北海道	三		三		三		三		三		三		三
東 京													
大 阪													
神 奈 川													
兵 庫													
長 崎													
新 潟													
埼 玉													
群 馬													
千 葉													
茨 城													
栃 木													
奈 良													
三 重													
愛 知													
靜 岡													
山 梨													

道府縣別	二十年		十年		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
滋 賀	三〇		三〇		三〇		三〇		三〇		三〇		三
岐 阜	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
長 野	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
宮 城	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
福 島	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
岩 手	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
青 森	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
山 形	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
秋 田	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
福 岡	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
石 川	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
富 山	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
島 根	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
鳥 取	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
島 田	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
廣 島	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
山 口	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
和 歌 山	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
德 島	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
香 川	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
愛 媛	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
高 知	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
大 分	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
佐 賀	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
熊 本	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
宮 崎	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
鹿 兒 島	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
神 戶	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三
合 計	三三		三三		三三		三三		三三		三三		三

備考 栃木縣 大正十三年は二村を掲記す、京都府 大正十三年大正十五年は二村を掲記す。

各府縣別平地接客業者「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年間		十年間		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	
北海道	八		一三	一	五	二	一	一	一	一	二	四	三
東 京													
大 阪													
神 奈 川													
兵 庫													
新 潟													
埼 玉													
群 馬													
千 葉													
茨 城													
栃 木													
梨 木													
三 重													
愛 知													
靜 岡													
山 梨													
滋 賀													
岐 阜													
長 野													
富 山													
石 川													
福 井													
秋 田													
山 形													
合 計	一七	五	三三	六	四七	八	四〇	二五	四二	二五	二〇	一七	三

道府縣別	二十年間		十年間		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	
北海道													
東 京													
大 阪													
神 奈 川													
兵 庫													
新 潟													
埼 玉													
群 馬													
千 葉													
茨 城													
栃 木													
梨 木													
三 重													
愛 知													
靜 岡													
山 梨													
滋 賀													
岐 阜													
長 野													
富 山													
石 川													
福 井													
秋 田													
山 形													
合 計	三三	五	三三	六	四七	八	四〇	二五	四二	二五	二〇	一七	三

備考 長崎縣 大正十三年は一村を掲記す、島根縣 大正十四年は一村を掲記す、大分縣 大正十三年は一村を掲記す、福岡縣最近三ヶ年分は三村を掲記す、徳島縣 十年前は三村を掲記す、三重縣 十年前、大正十五年は一村を掲記す。

各府縣別海岸(漁村)接客業者「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年 前		十年 前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
北海道	二		二七		三三		三三		三五		三		三村
東京都													
大阪府													
京都府													
奈良府													
和歌山													
徳島													
香川													
愛媛													
高知													
福岡													
大分													
佐賀													
熊本													
宮崎													
鹿児島													
沖縄													
合計	二		二七		三三		三三		三五		三		三村

道府縣別	二十年 前		十年 前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
北海道	六五		六五		四四		四四		四八		三〇		三村
東京都													
大阪府													
京都府													
奈良府													
和歌山													
徳島													
香川													
愛媛													
高知													
福岡													
大分													
佐賀													
熊本													
宮崎													
鹿児島													
沖縄													
合計	三三		三七		二二		二二		二二		二一		二村

備考 島根縣 二十年前は一村、十年前、大正十四年は二村を掲記す

各府縣別山間部落中其他の「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年 前		十年 前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
北海道	六五		六五		四四		四四		四八		三〇		三村
東京都													
大阪府													
京都府													
奈良府													
和歌山													
徳島													
香川													
愛媛													
高知													
福岡													
大分													
佐賀													
熊本													
宮崎													
鹿児島													
沖縄													
合計	三三		三七		二二		二二		二二		二一		二村



道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
栃木	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1
奈良	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2
三重	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3
愛知	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4
静岡	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5
滋賀	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6
岐阜	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7
長野	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8
富山	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9
石川	10,000	100	10,000	100	10,000	100	10,000	100	10,000	100	10,000	100	10
福井	11,000	110	11,000	110	11,000	110	11,000	110	11,000	110	11,000	110	11
秋田	12,000	120	12,000	120	12,000	120	12,000	120	12,000	120	12,000	120	12
山形	13,000	130	13,000	130	13,000	130	13,000	130	13,000	130	13,000	130	13
青森	14,000	140	14,000	140	14,000	140	14,000	140	14,000	140	14,000	140	14
岩手	15,000	150	15,000	150	15,000	150	15,000	150	15,000	150	15,000	150	15
宮城	16,000	160	16,000	160	16,000	160	16,000	160	16,000	160	16,000	160	16
長野	17,000	170	17,000	170	17,000	170	17,000	170	17,000	170	17,000	170	17
岐阜	18,000	180	18,000	180	18,000	180	18,000	180	18,000	180	18,000	180	18
滋賀	19,000	190	19,000	190	19,000	190	19,000	190	19,000	190	19,000	190	19
岐阜	20,000	200	20,000	200	20,000	200	20,000	200	20,000	200	20,000	200	20
愛知	21,000	210	21,000	210	21,000	210	21,000	210	21,000	210	21,000	210	21
徳島	22,000	220	22,000	220	22,000	220	22,000	220	22,000	220	22,000	220	22
香川	23,000	230	23,000	230	23,000	230	23,000	230	23,000	230	23,000	230	23
愛媛	24,000	240	24,000	240	24,000	240	24,000	240	24,000	240	24,000	240	24
高知	25,000	250	25,000	250	25,000	250	25,000	250	25,000	250	25,000	250	25
福岡	26,000	260	26,000	260	26,000	260	26,000	260	26,000	260	26,000	260	26
大分	27,000	270	27,000	270	27,000	270	27,000	270	27,000	270	27,000	270	27
佐賀	28,000	280	28,000	280	28,000	280	28,000	280	28,000	280	28,000	280	28
熊本	29,000	290	29,000	290	29,000	290	29,000	290	29,000	290	29,000	290	29
鹿兒島	30,000	300	30,000	300	30,000	300	30,000	300	30,000	300	30,000	300	30
沖縄	31,000	310	31,000	310	31,000	310	31,000	310	31,000	310	31,000	310	31
合計	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
高知	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1
福岡	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2
大分	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3
佐賀	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4
熊本	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5
鹿兒島	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6
合計	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8

備考 長崎縣 大正十三年は一村を掲ぐ、福岡縣は既往三ヶ年間は三ヶ村を掲ぐ、徳島縣 十年前は三村を掲ぐ、三重縣 十年前は二村を掲ぐ。  
各府縣別海岸（漁村）中其の他の「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	
北海道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1
東 京	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2,000	20	2
神 奈 川	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3,000	30	3
兵 庫	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4,000	40	4
新 潟	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5,000	50	5
群 馬	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6,000	60	6
千 葉	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7,000	70	7
茨 城	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8,000	80	8
栃 木	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9,000	90	9
合計	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8,800	88	8

道府縣別	二十年間		十年間		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計	
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數
奈良	2,833	1,101	2,928	1,155	3,268	1,333	3,065	1,333	3,008	1,333	3,008	1,333
三重	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
愛知	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
山梨	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
滋賀	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
岐阜	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
長野	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
富山	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
石川	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
福井	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
秋田	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
山形	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
青森	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
岩手	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
福島	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
山梨	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
徳島	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
香川	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
愛媛	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
高知	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300	1,000	300
合計	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000

道府縣別	二十年間		十年間		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計	
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數
福岡	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
大分	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
佐賀	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
熊本	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
鹿兒島	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
沖繩	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
合計	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000

備考 廣島縣 二十年前は一ヶ村を掲記す、福岡縣 十年前は二ヶ村を掲記す、三重縣 二十年前は三ヶ村を掲記す、福井縣 大正十四年は二ヶ村を掲記す。

各府縣別山間部落壯丁「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年間		十年間		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計	
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數
北海道	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
東北	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
関東	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
中部	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
近畿	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
四国	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
九州	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000
合計	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000	10,000	3,000

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	
奈重	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二村
愛知	四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	二村
靜岡	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
山梨	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
滋賀	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
岐阜	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
長野	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
富山	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
宮城	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
福島	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
石川	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
富山	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
島根	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
岡山	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
廣島	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
山口	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
和歌山	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
徳島	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
香川	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
愛媛	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
高知	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	
大分	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	三村
佐賀	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	二村
熊本	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	二村
鹿兒島	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	二村
宮崎	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	二村
鹿児島	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	二村
沖繩	九	九	八	八	八	八	八	八	八	八	八	八	二村
合計	三九	三九	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	

備考 島根縣 二十年前、十年前は二村を掲ぐ、廣島縣 二十年前は一村を掲ぐ、京都府 十年前は二村を掲ぐ、福岡縣 十年前は一ヶ村を掲ぐ、三重縣 二十年前、十年前は二村を掲ぐ。

各府縣別平地壯丁「トヲホーム」検診成績表

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	
北海道	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
東京	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
京都	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
大阪	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
神奈川	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
兵庫	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
長崎	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
新潟	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
群馬	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
千葉	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
茨城	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
栃木	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
奈良	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
和歌山	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
鳥取	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
徳島	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
香川	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
愛媛	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村
高知	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三村



道府縣別	二十年		十年		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計		村數
	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	人員	患者數	
三重	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
愛知	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
滋賀	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
山梨	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
静岡	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
岐阜	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
長野	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
宮城	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
福島	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
青森	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
山形	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
秋田	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
石川	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
富山	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
島根	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
鳥取	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
徳島	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
香川	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
愛媛	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
高松	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
福井	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
大分	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
佐賀	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
福岡	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
熊本	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
鹿兒島	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
沖縄	5	1	7	6	8	4	8	3	8	4	3	5	3
合計	46	20	53	43	50	30	40	30	37	25	49	31	1

道府縣別	二十年	十年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	三ヶ年間合計	村數
北海	6	10	11	12	13	42	3
東海	6	10	11	12	13	42	3
京阪	6	10	11	12	13	42	3
大坂	6	10	11	12	13	42	3
神奈	6	10	11	12	13	42	3
兵庫	6	10	11	12	13	42	3
長崎	6	10	11	12	13	42	3
新潟	6	10	11	12	13	42	3
埼玉	6	10	11	12	13	42	3
群馬	6	10	11	12	13	42	3
千葉	6	10	11	12	13	42	3
茨城	6	10	11	12	13	42	3
栃木	6	10	11	12	13	42	3
三重	6	10	11	12	13	42	3
奈良	6	10	11	12	13	42	3
和歌	6	10	11	12	13	42	3
山梨	6	10	11	12	13	42	3
静岡	6	10	11	12	13	42	3
岐阜	6	10	11	12	13	42	3
愛知	6	10	11	12	13	42	3
三重	6	10	11	12	13	42	3
合計	46	53	50	40	37	186	1

備考 長崎縣大正十三年は一村を掲記す。大分縣大正十三年は一村を掲記す。福岡縣は十年前は四村を掲記す。徳島縣十年前は三村を掲記す。

各府縣別海岸(漁村)壯丁「トラホーム」検診成績表

道府縣別	二十年	十年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	三ヶ年間合計	村數
北海	6	10	11	12	13	42	3
東海	6	10	11	12	13	42	3
京阪	6	10	11	12	13	42	3
大坂	6	10	11	12	13	42	3
神奈	6	10	11	12	13	42	3
兵庫	6	10	11	12	13	42	3
長崎	6	10	11	12	13	42	3
新潟	6	10	11	12	13	42	3
埼玉	6	10	11	12	13	42	3
群馬	6	10	11	12	13	42	3
千葉	6	10	11	12	13	42	3
茨城	6	10	11	12	13	42	3
栃木	6	10	11	12	13	42	3
三重	6	10	11	12	13	42	3
奈良	6	10	11	12	13	42	3
和歌	6	10	11	12	13	42	3
山梨	6	10	11	12	13	42	3
静岡	6	10	11	12	13	42	3
岐阜	6	10	11	12	13	42	3
愛知	6	10	11	12	13	42	3
三重	6	10	11	12	13	42	3
合計	46	53	50	40	37	186	1

道府縣別	二十年前		十年前		大正十三年		大正十四年		大正十五年		三ヶ年間合計	村數
	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數	人口	患者數		
岐野	105	15	27	7	44	5	3	3	3	3	2	1
長城			3	1			5	1	6	1	2	1
宮島												
福森												
山形												
秋田												
福井												
石川												
富山												
島根												
鳥取												
岡山												
廣島												
山口												
和歌山												
徳島												
香川												
愛媛												
高知												
福岡												
大分												
佐賀												
熊本												
鹿兒島												
合計	43	103	135	34	143	20	17	25	21	33	46	2

合計	沖繩
43	1
103	1
135	1
34	1
143	1
20	1
17	1
25	1
21	1
33	1
46	1
2	1

備考 京都府大正十四年は二村を掲記す。福岡縣十年前は二村を掲記す。

一般住民「トラホーム」検診成績表

(昭和二年新潟縣)

合 計	山		合計	男		女		合計		
	町ノ間	村ノ間		患者數	百分比例	患者數	百分比例			
									檢診人員	患者數
18,433	1,357	1,133	1,357	3,150	1,277	1,873	5,023	3,023	1,850	1,173
1,744	1,357	1,133	1,357	3,150	1,277	1,873	5,023	3,023	1,850	1,173
7.8%	7.3%	6.4%	7.8%	23.3%	11.1%	10.0%	27.6%	16.4%	15.6%	10.1%
10,352	1,882	1,917	1,882	2,590	1,617	2,205	4,795	2,699	1,917	7,712
1,743	1,882	1,917	1,882	2,590	1,617	2,205	4,795	2,699	1,917	7,712
9.1%	9.7%	9.9%	9.1%	27.9%	14.0%	12.5%	32.4%	19.7%	15.0%	20.5%
15,681	1,117	1,317	1,117	1,560	1,660	3,220	2,228	2,324	2,933	3,837
1,743	1,117	1,317	1,117	1,560	1,660	3,220	2,228	2,324	2,933	3,837
8.7%	6.3%	11.6%	8.7%	4.8%	14.7%	22.5%	11.3%	14.5%	15.5%	25.4%
3,097	3,220	3,173	3,220	3,150	1,617	2,205	4,795	2,699	1,917	7,712
3,097	3,220	3,173	3,220	3,150	1,617	2,205	4,795	2,699	1,917	7,712
16.9%	23.3%	22.6%	16.9%	9.4%	12.5%	12.5%	32.4%	19.7%	15.0%	20.5%



